

重点目標を達成するための今年度の取組と評価基準・評価結果

| 重点             | C短期経営目標(年度末までにどのような状態にするか)                           | 具体的な方策                                                                   | 具体的な取組 |                                         | 成果 |                                  |
|----------------|------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|--------|-----------------------------------------|----|----------------------------------|
|                |                                                      |                                                                          | 評語     | 取組に関する指標                                | 評語 | 成果指標                             |
| 1<br>知（確かな学力）  | 目標時間の家庭学習を行っている児童の割合を85%以上とする。                       | 家庭と連携した家庭学習強化月間を実施する。年間をととして学年の家庭学習目標時間に沿った量の毎日の宿題や自主学習について提示する。         | A      | 家庭学習指導を90%以上の日に実施した                     | A  | 目標時間達成の児童85%以上                   |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 同80%以上実施                                | B  | 同80%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 同70%以上実施                                | C  | 同75%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 同実施70%未満                                | D  | 同75%未満                           |
|                | 図書とタブレットそれぞれの活用の良さを理解している児童を80%以上とする。                | 情報センターとしての学校図書館の機能整備と計画的・効果的な活用、図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施する。               | A      | 図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施し児童にそれぞれの良さを指導した | A  | 理解している児童80%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 図書とタブレットの特性を生かした調べ学習を実施した               | B  | 理解している児童70%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 学校図書館の活用計画を確実に実施した                      | C  | 理解している児童60%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 学校図書館の活用計画の未実施があった                      | D  | 理解している児童60%未満                    |
|                | 児童の90%以上が学習に意欲的に取り組み、通知表の「もう少し」を5%以下とする。             | ICT機器等を効果的に活用し、個別学習と対面学習を効果的に融合した指導法改善に取り組む。                             | A      | 融合した指導法改善に取り組んだ                         | A  | 意欲的90%以上、もう少し5%以下                |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 形成的評価を大切にした指導と評価の一体化を行った                | B  | 意欲的90%以上、もう少し8%以下                |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 補助教材や教具の活用など合理的配慮を整備した                  | C  | 意欲的80%以上、もう少し8%以下                |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 児童理解に基づいた授業づくりに取り組んだ                    | D  | 意欲的80%未満、もう少し8%以上                |
| 2<br>徳（豊かな人間性） | 「みんなのきまり」を守っている児童の割合を90%以上とする。うち、◎を50%以上とする。         | 「みんなのきまり」を指導し、各学級で一か月の振り返りを行い、取組状況の確認と改善点の作成、次の目標を設定する。                  | A      | 3/4以上は児童評価を生かした指導の改善や継続に取り組んだ           | A  | 守っている児童90%以上 ◎50%以上              |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 1/2以上は児童評価を生かした指導の改善や継続に取り組んだ           | B  | 同80%以上 ◎40%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 毎月児童評価を実施し、児童に活動を振り返らせた                 | C  | 同70%以上 ◎30%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 児童評価が実施できないことがあった                       | D  | 同70%未満                           |
|                | いじめの早期発見、早期対応を図り、事案確認から1か月以内に解決する。                   | 学校いじめ防止基本方針に則った取組を実施する。いじめ防止標語・ポスター作成、あいさつ運動などの児童活動を行い、いじめ防止を常に児童に意識付ける。 | A      | 他教員と協同して100%対応した。常にいじめ防止を意識して取り組んだ      | A  | 1か月以内に全件解消                       |
|                |                                                      |                                                                          | B      | アンケートや発生事案に100%対応した                     | B  | 2か月以内に全件解消                       |
|                |                                                      |                                                                          | C      | アンケートや発生事案に未対応があった                      | C  | 3か月以内に全件解消                       |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 計画の未実施があった                              | D  | 3か月以上の継続指導あり                     |
|                | 自分を大切にする児童を90%以上、友達を大切にする児童を95%以上とする。                | 各児童の道徳振り返りシート等を用いて学習状況や道徳性に係る成長の様子を捉え、適切な評価と指導を重ねることにより児童の自尊感情を高める。      | A      | 振り返りシートを活用し、学習状況の把握と自尊感情を高める指導を実施した     | A  | 自分90%以上、友達95%以上                  |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 他教諭の授業を参観し、授業改善を図った                     | B  | 自分85%以上、友達80%以上                  |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 全時間において、道徳科の趣旨に基づいた授業を実施した              | C  | 自分80%以上、友達75%以上                  |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 道徳科年間指導計画を確実に実施した                       | D  | 自分80%未満、友達75%未満                  |
|                | 通常級・特別支援学級の交流が楽しいと感じる児童を80%以上とする。                    | 学校生活支援シートの作成と情報共有、活用を図る。通常級と特別支援学級の交流活動を推進する。                            | A      | 交流活動をととして共生の意識を感じさせることができた              | A  | 交流が楽しい児童80%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 通常と特別支援学級の児童の交流を図った                     | B  | 交流が楽しい児童70%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 特別な支援について、児童に発達段階に応じた理解をさせた             | C  | 学校が楽しい児童90%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 教育活動に合理的配慮を取り入れた                        | D  | 学校が楽しい児童80%以上                    |
| 3<br>体（健康・体力）  | 体を動かすことが楽しい児童の割合を90%以上とする。                           | 体育学習の内容、方法やかかわりの工夫、体育朝会、年間2回設定した体力向上月間を実施する。                             | A      | 年間をととして休み時間の遊びなど体を動かす取組の工夫を行った          | A  | 体を動かすことが楽しい児童90%以上               |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 運動に親しむための授業改善に取り組んだ                     | B  | 同85%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 体育学習における児童同士のかかわり方を工夫した                 | C  | 同75%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 体力向上月間の取組を推進した                          | D  | 同75%未満                           |
|                | 健康に元気に過ごしている児童の割合を90%以上とする。                          | 校内委員会や夕会において児童の情報を共有し、適切かつ効果的な指導を全教職員で行う。心と体の関係についての体験的学習を全学年で実施する。      | A      | 他教員と協同し、児童への適切で効果的な指導・支援に取り組んだ          | A  | 健康に元気に過ごしている児童90%以上              |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 児童への適切で効果的な指導・支援に取り組んだ                  | B  | 同80%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 健康についてに実態に応じた指導を行った                     | C  | 同70%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 心と体を一体としてとらえた学習を行った                     | D  | 同70%未満                           |
|                | 学年に応じたSOSの出し方を理解し、だれかに相談できる児童の割合を90%以上とする。           | 発達段階に応じたSOSの出し方について具体的に指導する。特に、年度始め、長期休業日前は重点的に行う。教員はSOSを敏感に受け止める感覚を養う。  | A      | 重点時期に確実に指導した                            | A  | だれかに相談できる児童90%以上                 |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 研修・研鑽を重ねてSOSを敏感に受けとめる感覚を身に付けた           | B  | SOSを受けとめる感覚が向上した（教員）             |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 具体的なSOSの出し方を指導した                        | C  | だれかに相談できる児童75%以上                 |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 適切に指導できなかった                             | D  | だれかに相談できる児童75%未満                 |
|                | 安全に気を付けて生活している児童の割合を90%以上、自転車安全利用五則遵守を95%とする。        | 安全指導計画に則った指導を確実に実施する。                                                    | A      | 安全について、年間を継続して意識をもって児童に適切に指導した          | A  | 安全に気を付けて生活している児童90%以上、自転車安全95%以上 |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 学年で共有化した指導を行った                          | B  | 同85%以上、同90%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 学校安全計画に基づく指導をほぼ100%実施                   | C  | 同80%以上、同85%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 学校安全計画に基づく指導ができなかった                     | D  | 同80%未満、同85%未満                    |
| 4<br>働き方       | 区の条例施行規則を遵守し、時間外勤務の上限について月45時間、年間360時間を目標とする。        | 校務分掌組織を改編し分掌の改善を図る。庶務事務システムを活用し業務量の適切な管理を図る。                             | A      | 月45時間以下が10か月以上、年間では360時間以下              | A  | ライフ・ワークバランスに改善があったと感じる教職員が80%以上  |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 月45時間以下が8か月以上、年間では360時間以下               | B  | 同75%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 月45時間以下が6か月以上、年間では360時間以下               | C  | 同50%以上                           |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 月45時間以下が4か月以上、年間では360時間以上               | D  | 同50%未満                           |
| 5<br>連携        | （自己肯定感）自信のあるところのないところを含め、自分自身にだいたい満足している児童を75%以上とする。 | 児童をよく見て気づき、児童によさを伝えとともに、保護者・地域を啓蒙し連携・協力していく。                             | A      | 家庭と連携して取り組んだ                            | A  | 児童の肯定的評価75%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | B      | よさを児童に十分インプットした                         | B  | 児童の肯定的評価60%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | C      | よさを児童にインプットした                           | C  | 児童の肯定的評価45%以上                    |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 児童のよさを見出す力を向上させた                        | D  | 児童の肯定的評価45%未満                    |
|                | 数学・算数、英語・外国語について、学力を向上させる取組を構築する。                    | 抽出生徒・児童の学力調査の分析及び相互の授業観察等から、学力向上に係る具体的な方策を立て実施する。                        | A      | 習熟度に応じた学力向上の手立てを立てて実施、検証、改善した           | A  | 2教科で有効な方策を見出した                   |
|                |                                                      |                                                                          | B      | 授業改善プランの実施状況と効果を検証した                    | B  | 1教科で有効な方策を見出した                   |
|                |                                                      |                                                                          | C      | 学力調査結果を基に授業改善プランを改善した                   | C  | 小中連携して実施した                       |
|                |                                                      |                                                                          | D      | 小中の教員の交換授業等により指導方法の改善を図った               | D  | 有効な方策は見出せなかった                    |